

第4章 公安情勢

オウム真理教

教団の現状

オウム真理教は、麻原彰晃こと松本智津夫への絶対的帰依を強調する**主流派**（「Aleph（アレフ）」）と松本の影響力がないかのように装う**上祐派**（「ひかりの輪」）を中心に活動しています。現在、教団は、15都道府県に**32か所の拠点施設**を有し、両派の信者数は、その活動状況等から合計で**約1,650人**とみられます。

主流派は、依然として松本を「尊師」と尊称し、同人の「生誕祭」を開催しているほか、松本の写真等を拠点施設の祭壇等に飾るなど、**松本への絶対的帰依を強調する「原点回帰」路線**を強めています。また、平成25年中に行われた公安調査庁による立入検査によって、**刃物様の物で串刺しにされた公安調査官や警察官等の顔写真**が、同派施設内に置かれていたことも判明しています。

一方、上祐派は、同派のウェブサイトにも旧教団時代の反省・総括の概要を掲載したり、各種メディアを通じ、「松本からの脱却」を強調したりするなどし、**松本の影響力がないかのように装って活動**しています。また、同派は、著名人との対談やマスコミの取材等を積極的に受け入れるなどし、「開かれた教団」のアピールに努めています。

今後、主流派は、松本への絶対的帰依をより強めていくものとみられます。一方、上祐派は、同派のイメージアップを通じ、**無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律（団体規制法）に基づく観察処分の適用回避に全力を挙げる**ものとみられます。



オウム真理教の拠点施設等

組織拡大に向けた動向

主流派は、街頭や書店における声掛けのほか、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）等を利用したり、大学関連のサークル活動を装ったりしながら、青年層を中心に接触を図り、**教団名を秘匿しながらヨガ教室に勧誘**するなどして新規信者を獲得しています。

一方、上祐派は、各拠点施設で開催している「上祐代表説法会」や、各地の神社仏閣等を訪問する「聖地修行」等の行事について、**ウェブサイトを通じ、在家信者に限らず一般人の参加も呼び掛ける**などして信者獲得を図っています。

オウム真理教対策の推進

24年中、全てのオウム真理教関係警察庁指定特別手配被疑者が逮捕されたことにより、これまで全国警察を挙げて推進してきた追跡捜査は終了しました。しかし、教団は、依然として松本及び同人の説く教義を存立の基盤とし、無差別大量殺人行為に及ぶ危険性が認められるとして、団体規制法に基づく観察処分に付されるなどしており、その本質に変化がないと認められることから、警察では、無差別大量殺人行為を再び起こさせないため、引き続き、関係機関と連携して教団の**実態解明**に努めるとともに、**組織的違法行為に対する厳正な取締り**を推進しています。25年中は**公安調査官に対する公務執行妨害事件で、主流派出家信者2人を検挙**しました（2月、福岡）。

また、教団施設周辺の地域住民の不安を和らげるため、教団施設周辺におけるパトロール等の**警戒警備活動**を実施しているほか、地下鉄サリン事件等教団による一連の凶悪事件に対する記憶の風化を防止するとともに、教団の現状について適切な理解を得るため、各種機会を通じ、教団の現状について**広報**しています。さらに、教団の組織的違法行為に対する検挙事例や警戒活動等教団に対する警察の取組について、住民や地方自治体等に対して積極的に情報を発信しています。



オウム真理教拠点施設の搜索状況



教団施設周辺の警戒警備状況